

中村 美紗さん

子連れでも働きやすい職場を作る
託児所設置や自由な出退勤に挑戦

福岡県久留米市
株式会社フルトリエ 代表取締役



女性たちが働きやすい職場を作る。言うのは簡単だが、農業の世界は典型的なメンズワールド(男の世界)。敷地内に育児施設を設け、従業員一人ひとりの事情に合わせた柔軟な勤務時間を認める福岡県久留米市の観光果樹園「フルトリエ」は異彩を放つ。新風を吹き込んだのは、キックボクサー出身の中村美紗さん(37歳)だ。

実家の梨農家を継ぐ

——プロのキックボクサー出身でAFJ日本農業経営大学校(以下、AFJ)に入りましたね。

中村 高校卒業後は実家を出て、愛知県の自動車部品メーカーで働いていました。2008年のリーマンショックで仕事が減り、空き時間に

キックボクシングに出会ったら、もう楽しくなっちゃって。21歳で会社を辞め、23歳でプロデビューしました。その後、ケガをしてしまいマネージャーのような裏方の仕事をしていたのですが、選手として試合ができないのであれば、もっと打ち込めることをしたいと考えました。そこで実家の梨農家を継ぎたいと思い、「農業の勉強をしなくちゃ」と考えたのです。

インターネットで検索したらAFJが最初に出てきて、「マーケティングや経営のことが学べるかな」と考え、応募しました。当時は全寮制で、2年間みっちり学びました。国の新規就農支援策で授業料の助成を受けられたのはありがたかったです。研修で学んだことや、同窓生のネットワークなどは本当に役に立つ

ています。今でも集まって相談したり、年越しには遊びに来てくれたり、イチゴハウスが炭そ病で被害を受けた時には、三重県や静岡県の同窓生が苗を送ってくれたこともありました。彼らとのつながりが、私にとって大切な財産ですね。

毎日がむしやらで作業続ける

——AFJ卒業時に作成した事業計画5項目のうち、4項目は実現したのですね。

中村 卒業時の事業計画は、「卒業したらブドウで独立就農します」「直売所をやります」「観光農園を始めます」「カフェを開きます」「スポーツに関連した事業に進出します」という5項目でした。前4項目はすでに実現して、最後だけは今手一杯でまだ

取りかかれています。

卒業式の翌日には久留米市に戻って実家の農場でひたすら働きました。2年目にカフェをオープンしてからは、早朝に畑で作業して9時に店に出て、午後4時半のラストオーダーが終わると、ちよつと片付けして5時から畑。忙しい時には夜まで摘粒作業をすることもあります。

知人からは「本当に気合いと根性だけで農業している」と冷やかされましたが、毎日がむしやらに働きました。格闘技をやっていたので体力があったからできたのでしょうかね。

「自分で思い描けることは、頑張れば実現できる」と信じていたので、迷うことはありませんでした。

——女性が働きやすい職場づくりを実現されています。何がきっかけ



株式会社フルトリエ代表取締役の中村美紗さん＝久留米市のハウスにて

だったのですか。

中村 就農した翌年の2018年に会社員時代の同僚が経営に参加し、19年には格闘技時代の友人も来ました。どちらも女性です。カフェの求人を出すと、応募してくるのは優秀な女性ばかり。それで経営が大きくなるにつれて自然と女性が増えて、法人化する前には父以外は従業員全員が女性みたいな感じでした。

——女性が働きやすい職場環境でなければ経営そのものがうまくいかないし、必然的にそうなったというこ

とでしょうか。

中村 必要に迫られる最初のきっかけとなったのは、20年の新型コロナウイルス感染拡大の時でした。あの時は保育園、幼稚園、小学校が軒並み休みになってしまいました。その期間も2週間から3週間に及んで、うちの場合は若い女性が多いので、みんな仕事を休んで自宅ですどもの世話に追われました。若いおばあちゃんの中には「息子や娘夫婦が休めないから孫の面倒を見る」という事情の人もいました。

コロナ禍で働き手が消えた

——働き手がすっぱり抜けてしまったのですか。

中村 そう、主力の働き手がいきなり戦力外になってしまったのです。ちょうど私も第一子を出産した時期で、子どもを仕事場に連れて行き作業していました。それを見て「私も子連れで働きたい」という声が聞こえてきました。休まざるを得ないけれど、みんな仕事をしたかったのです。うちは農園なので、職場に子ども

がいても仕事に支障があるわけはありません。そう考えて、一斉に「子連れ出勤でも良い」と号令を出しました。

コロナの感染がひどい時には観光農園も営業できませんでした。ただ、だんだん落ち着いてくると「もう外のアクティビティは平気ではないか」となって、お客さまが増えました。そうすると人や車の出入りが激しくなるし、駐車場が混んでくる。子どもを預かる立場からすると安全性に不安が出てきました。

Profile
なかむらみさ
福岡県久留米市出身。自動車部品メーカー勤務、キックボクサーを経て、2017年4月に実家の中村果樹園に就農。この年にブドウやイチゴの栽培を開始し、観光農園と直売を矢張り早にスタートした。翌18年にはカフェを新設した。JA福岡くるめの支部青年部長。地域の食育活動などにも取り組む。

Data
株式会社フルトリエ
110年以上の歴史を持つ梨農家、中村果樹園を母体に2022年に法人化。資本金は500万円。以前は全量を地元JAを通じて市場向けに出荷していたが、現在は観光農園と直売所で販売する。ふるさと納税の返礼品としての販売にも力を入れる。主力のイチゴが75^{kg}、梨が140^{kg}、ブドウが135^{kg}。イチゴハウスは通路が広く、車椅子やベビーカーでも快適に利用できる。営業期間も12月から6月までと長いのが特徴。

AFJ時代の知り合いに相談してみたところ、農林水産省のさまざまな支援情報を教えてくれて、「女性の就農環境改善補助金」で託児所を整備できることが分かりました。しかも、たまたまその時にパートタイムで応募してきた人の中に2人、保育士の資格を持っている人がいました。偶然のタイミングが重なり、「もうこれは託児所を作れということだな」と覚悟を決めて補助金を申請し、コナテナを買って託児スペースを確保しました。

——託児所は無料だったのですか。

中村 費用は無料です。コロナ禍では毎日保育士のスタッフが子供を見に来て、現在は保育園がお休みの土日祝に託児スペースで預っています。

す。昼食などはお弁当を持参してもらっています。

そうすると、職場と同じ場所に子どもがいるという安心感もあって、女性の働きやすさがぜんぜん違ってきました。例えば、それまで休日は若い女性がなかなか出勤できていませんでした。その分、私が黄金世代と呼んでいる、子どもが大きくなって手が掛からない、孫はまだいないという女性たちにめっちゃ頑張ってもらっていたのですが、託児所を作ったことで、若い世代の女性たちも週末に働けるようになりました。

託児事業者との提携に切り替え

——その後、託児所の仕組みを変えたそうですね。

中村 今は託児所のスペースであるコンテナを会社が持つ一方で、実際の運営管理は別の訪問型の託児ビジネスをしている事業者と提携するかたちになっています。その事業者は元々うちで保育士として勤務していた方が、独立志向があって起業して経営しています。

託児所をうちが運営した方がコストは小さい。しかし、大切な子どもを預かる保育の仕事を、「社内で片手間でするのはどうかな」という不安もありました。正規の訪問型託児事業

の許可を持つ企業とビジネスとして契約をした方が良いと考え、業務委託契約に切り替えました。

今は4〜5人を預かっています。小学校低学年の子どもも、親の仕事が終わるまで本を読んで過ごすこともありま。小学生ですからあまり手間はかかりません。裏の窓からソフトラームをあげれば、だいたい良い子にしていますよ。あと、事前に相談してもらえれば、託児スペースで従業員の孫を預かることもありま。すね。

——出退勤の面でも働く人の都合を最優先させているのですか。

中村 出勤する時間は全員ばらばらです。基本は自己申告で、アプリでそれぞれが時間を入力して終わり。何か自分の都合で休んだり早上がりする時には連絡するという仕組みです。自分の働ける時間帯を選んで出勤するというイメージです。

例えば子どもが急に発熱したとか、学校の行事が入ったとかは当然あります。その場合でもほとんどが「〇〇さんが早退するので私がやっておきますーすー」みたいなかたちで自発的に調整ができていますね。

それで仕事は回っていて、私が調整するような場面は月に2回ぐらいでしょうか。

——観光農園の場合、来園者が集まる週末に働く人が足りないといったことはありますか。

中村 逆に休日にはばかりお客さまが集中しても大変です。人や車が多すぎて対応しきれないとか、イチゴの生育が追いつかないとか。なるべく平日も含めて平準化した方が理想的なので、オンライン予約で来園者の数を調整するようにしています。

従業員同士の交流は大切です。お互いがよく知っているから、自発的な調整ができます。また、うちの場合、農園とカフェだと仕事はかなり違います。カフェのお客さまからイチゴ狩りのことを聞かれても「分かりません」では困ります。互いのことをよく知るため、定期的にカフェでランチ会を開いたり、イチゴ狩り体験をしたりします。今は毎年誰かが妊娠している状態ではばくは難しいですが、以前はみんなで韓国や台湾に社員旅行に行っていて、いずれまた行きたいです。

推し活の従業員も大切な戦力

——職場の男女比率はどれくらいですか。

中村 従業員は合計23人で、このうち農園の現場作業4人とカフェのシェフ1人が男性で、女性が18人で

すね。従業員のうち正社員は7人です。

正社員ではないけれど、ほぼ同じような働きをする人もいます。推し活をしているとか、海外の山登りに熱中しているとかで、月給制の正社員としての雇用ではないですが、趣味以外の時には猛烈に働いてくれています。彼女たちも貴重な戦力です。

2人の外国人を含めた男性4人が、農園でハウスの解体とかビニールの張り替えなどの重労働を担当してくれます。もともと女性が多い職場ではあるのですが、こうしたメンズの存在も仕事をうまく回す上では欠かせません。

——会社の売り上げは1億円を超えたそうですね。

中村 1億円というのはAFJ時代から目標にしていました。あまり厳密に計算したものではなくて、経済誌の編集者にインタビューされた時に、切りが良い数字が浮かんで。早い段階に2億円は達成したいし、もう少し先の目標も考えています。

長い目で見て農場の規模を増やすのもいいし、独立志向の従業員もいるので、のれん分けや、コンサルティング事業を始めるといったことも考えています。

(ジャーナリスト 山田 優)

